

令和6年8月20日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
足立区立興本小学校（外3校）	足立区教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
足立区立興本小学校	https://sites.google.com/ict.adachi.ed.jp/okimotoougi/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%B5%8C%E5%96%B6%E8%A8%88%E7%94%BB
足立区立扇中学校	
足立区立新田小学校	https://www.adachi.ed.jp/adshin-j/about.html
足立区立新田中学校	

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
足立区立興本小学校	https://sites.google.com/ict.adachi.ed.jp/okimotoougi/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%B5%8C%E5%96%B6%E8%A8%88%E7%94%BB	
足立区立扇中学校		
足立区立新田小学校	https://www.adachi.ed.jp/adshin-j/about.html	
足立区立新田中学校		

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている ・一部、計画通り実施できていない ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

なし

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成における目標の達成状況

ア 英語によるコミュニケーション能力を高める学習

英語科・外国語活動との関連を意識しながら、発信力や表現力の育成、他者意識の持たせ方等に取り組み、その上で校外学習でのインタビューや、台湾や香港の生徒とのオンライン会話など、外国の方とのコミュニケーション活動を実施した。その結果、英語を通したやり取りについての生徒アンケート（「外国人の人へのインタビューで自ら聞きたいことを質問することができた」など）で、9割程度の肯定的回答が得られた。

イ 国際理解を深める学習

自国の伝統・文化を世界の国々や環境と関連付けながら学習し、地域のゲストティーチャーや大使館との交流に取り組んだ。その結果、国際理解に関する生徒アンケート（「日本と世界の多様な文化に触れ、理解を深めることができた」など）で、9割程度の肯定的回答が得られた。

ウ 自らの生き方を考える学習

学校行事と絡めるなどして、自ら設定した課題を解決する等探究的な学習に取り組んだ。その結果、将来に向けた自らの生き方に関する生徒アンケート（「将来の夢に向かい、自己の課題をとらえ、探求し、自己の考えや方やものの見方を広げることができた」など）で、9割以上の肯定的回答が得られた。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

(1)イのアンケートに見られるように、学校教育法第21条第3号に掲げる目標（我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと）の達成に資する取組みであると捉えている。

また、(1) ア「英語によるコミュニケーション能力を高める学習」を通して両学園とも、足立区学力定着に関する総合調査では中学校英語の平均正答率が全体平均（同調査を実施している全自治体の平均正答率）を概ね超えており、英語学習のモチベーションにつながっていると考えられる。

令和6年度足立区学力調査 平均正答率（英語）

	全体	1年	2年	3年
興本扇学園	<u>68.2</u>	88.9	<u>57.4</u>	<u>65.5</u>
新田学園	<u>72.7</u>	<u>91.0</u>	<u>64.6</u>	<u>69.1</u>
全体平均値	67.9	89.1	54.0	60.7

※ 下線は全体平均値を超えている学年

(%)

5. 課題と課題改善のための取組の方向性

	課題	方向性
①	世界の国々や文化に関する調べ学習、発信方法について、より質の高いものにしていくために、発達の段階に応じた指導方法を確立する必要がある。	<指導計画及び目標の見直し> 年度当初の分掌部会、校内研究全体会等において、教育基本法や学校教育法との関連性について共有し、全教職員に共通認識を持たせた上で、行事の在り方を適宜見直すなどして、系統的かつ教科横断的な取組みとして定着を図っていく。
②	学年間や異学年間で発表し合う場の設定や関連する指導スキル等について、人事異動による教職員の入れ替わりに耐え得る、指導方法や次年度に向けた引継ぎ体制の確立が求められる。	<指導方法の共通実践> 校内研修会や教員間の打合せを年間計画に位置付け、全校で組織的に取り組む体制を確立する。また、学年間や異学年間で発表し合う場の設定や、学校図書館やタブレット端末を活用した探究的な学習の推進など発達の段階に応じた指導方法を確立していく。